

宇賀

出雲風土記によれば、大昔大己貴命が綾門姫命に求婚したところが姫は承諾せず身を隠された。身を隠すことは当時の習慣。

出雲国風土記鈔によれば大己貴命は、綾門姫命がどこへ身を隠されたのかと、出雲大社を出て、弥山・鰐淵山を経て、て宇峠のあたりを尋ね伺われました。という故事から宇賀の地名ができたとしている。

女神隠れた「黄泉の穴」

姫の隠れたところが「黄泉の穴」といわれ奥宇賀にあります。「冥途の穴」とも言われています。

穴の入り口に小さな祠（夜見神社）をまつり、現在も、9月上旬に祭事が行われています。



宇賀神社

おこなむちのみこと あやとひめのみこと

御祭神は 大己貴命・綾門姫命。

永正10年(1513)の棟札はあるが鎮座年歴は見当たらず創立年代は明らかで無い。

九条家、武田家本ともに「宇加神社」と記している。風土記の「宇加社」に相当する。明治4年(1871)以降は「宇賀神社」となっている。

獅子舞(宝暦14年(1764)の神社書出帳に記載されている。)昭和53年4月島根県無形民俗文化財指定。毎年10月の例大祭の日に「本奉納」が行われる。演目は、伊勢流段獅子の形式を踏まえているといわれている。



才の神



熊野神社合祀

木野山神社

通称「オオカミさま」と言われる。江戸時代の終わり頃此の地方にコレラが大流行し、死者や病者がたくさん出た。大社で大祈禱を上げたり、松平定安公も京都より帰って祈った。幸い祈禱に依り、コレラは姿を消したようだ。

当時、岡山県高梁市の「木野山神社」は流行病の時には、神使の「狼」を奉じて悪病をことごとく退治するとの評判が高かったのでみんなで相談してこの地に勧請したと伝えられている。

2025年6月1日宇賀神社内に遷宮された。



お地藏さん

岡崎家の南(富田屋家建立)

中前家の東三叉路(城之下家建立)

地藏本家の西(城之下家建立)

天場坂紺屋家墓地の南道路脇(城之下家建立)

宇賀橋北の三叉路道路脇(麴館家建立)

錦卷家邸内(錦卷家建立)



南無阿弥陀仏碑

「銘＝單心了傳居士營」(錦卷家初代建立)

国富境(榎木付近)

県道二又合流地点

天場坂道路紺屋家墓地脇



口字賀熊野神社古墳



熊野神社跡にあって墳を覆っていた土は全く取り除かれ大石を以って組み立てられた石室が露

出している。現在入口は塞がれているものの、恐らくは過去に開けられ石室内の遺物は取り出された形跡が認められる。墳は南方に向き石室の全長は5.4m、幅2.4m米、高さ2.9米で、今石室の内部を覗くことは出来ないが考古学的調査を行えば何程かの遺物が残っているかも知れない。



ばいせん
お婆石

口宇賀の奥、大谷川を堰止めてつくられたダムがある。その水辺より高山（標高405m）に登る山道を通称「オバイセン」尾根と云う。

古の鰐淵寺へ詣る山岳道か？途中に大門という地名が今も残っている。

その尾根の中腹に、楕円形の巨巖が一体、これを「お婆石」と呼んでいる。

昭和46年、巨巖の傍に倒れていた石灯籠1基が見つかり、表面に「奉寄進志主、地下中代表黒崎吉兵衛、元文庚申5年(1740)」と刻まれていた。

明治39年、宇賀神社の境内社「御崎ノ社」に合祀された。



正定山三玄寺

宗派 臨濟宗妙心寺派

本尊 阿弥陀如来

由緒 創建年月不詳。「雲陽誌」（1717年刊）によれば、もと「定林山安住寺（禅宗）」と称し、安来「雲樹寺開山三光国師の開基」とする。

千願寺・清巖寺（共に天台宗）を、安住寺の地に合併・合祀し、正定山三玄寺とした。

弘化2年（1845）11月本堂・観音堂が焼失、明治2年3月、七代堪洲宗忍和尚の生家大津町森田七右衛門本願主となり、観音堂を再建する。明治13年、堪洲和尚によって本堂が再建され、今日に至る。



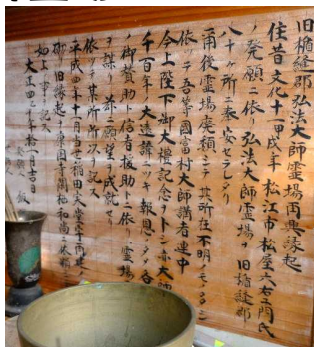
弘法大師靈場

弘化年間（1840年代）五代観堂慈音和尚（国富小柳家出身）が弘法大師の靈夢により、三玄寺裏の山上に八十八ヶ所の石造大師を勧請したと言われる。



旧楯縫郡弘法大師霊場

文化11年（1814）松江市の松屋六右エ門の発願により弘法大師の霊場が旧楯縫郡八十ヶ所に奉安されていましたが、その後次第に廃れたり所在も分からなくなっていたものが多



くなっていました。そこで国富村大師講者連中が大正天皇御大記念、弘法大師千百年の大遠禱を記念して霊場が再興された。

口宇賀地区には以下の3カ所がある

- 6番 弘法大師堂
- 7番 三玄寺
- 8番 紺屋



貴船神社

出雲国風土記に、弥努波社とある。出雲国風土記考證(1926)で口宇賀の貴船大明神として



いるも出雲国風土記参究(1962)では「口宇賀の貴船大明神であるとされているが明らかでない」とされる。現在は宇賀神社に合祀されている。

6尺4面の玉垣内に幣帛を以て祀られていたが、言い伝えによれば当地山抜のため埋没した。その折社殿の造営を相談した時に、「社殿を新たに造るというならば出雲大社の社殿よりも規模の大きなものを造れ、しからざれば寧ろ造らざるに如かず」とあったので造営せず、現在なお玉垣内に幣帛をもって祀っている。

祭神は高霞神(たかおかみのかみ)で水の神や雨乞いの神として信仰されている。

熊野神社

1551年山口の領主大内義隆、重臣の陶晴賢の反逆により殺される。多々良邦嘉、乱を出雲に逃れ氏を北村と改め翌年熊野神社を建立。

多々良氏は旧主大内家の再興願い此の地方に六社の熊野神社を建立。

1441年大内介持筑前太宰府嘉頼追伐の時早鞆の海で海神より授かったものと伝えられる一個の宝玉と四個の宝石が宝物としてある。

この宝物の影を映していただけ、寒熱諸病に験しあり、なお大小便の通じをよくすと伝えられる。

通称[お玉さん]と言われている宝石類は宇賀神社の秋の例大祭と脇宮さん7月15日の例祭に祀られている。1906年宇賀神社の脇宮に合祀。

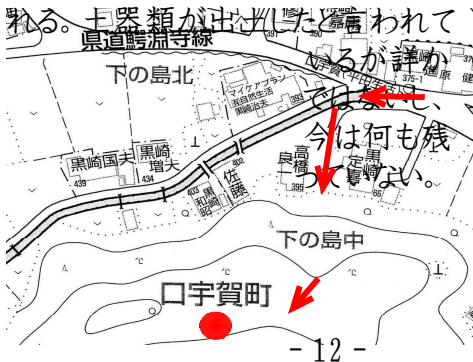


口宇賀森田古墳

墳丘の土は取り除かれて石組の石棺が露出し15cmの厚さの石蓋も棺の近くに置かれている。石棺の深さは70



cm、長さは1m80cm、幅は約80cmである。この墳は南方に向いて突出した稜線がある。墳丘が無くなっているので確かではないが南方への突出部はあるいは此の墳の前方部ではないかとの想像も出来て、小さいながらも前方後円墳であったかとも思われる。土器類が出土したと言われて



えのみん木

金山地区と口宇賀地区の境界に胴回り2mはあろうかという大木がある。字界地番の坂本と堀越の境界でもある。

平成17年完工の圃場整備の時、改良地区内道路の敷地に引っかかるということから伐採やむなしという状況もあったが、幸いに地元と関係者の相談の結果現状のように残すこととなったそうだ。

歩いて大社や鰐淵寺に詣でていた時代には休憩場所として重宝されていた。

車社会となり果たす役割は変化してきたがシンボリックな景観木のひとつではなかろうか。





参考資料

国富町誌・宇賀の宮里・くんどみ公民館報

国富コミュニティセンター
63-1372